

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371601234		
法人名	医療法人悠山会		
事業所名	グループホーム ファミリア元八事		
所在地	愛知県名古屋市中村区元八事三丁目292番地		
自己評価作成日	平成23年11月27日	評価結果市町村受理日	平成24年2月9日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ケア・ウィル		
所在地	愛知県名古屋市中村区椿町21-2 第2太閤ビルディング9階		
訪問調査日	平成23年12月7日	評価確定日	平成24年1月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

精神面及び身体面での介護を主とする等施設では、会話や日常援助を通してへの出来ることへの喜びや楽しみを見出した生活感あふれる雰囲気作りを目指しています。町内会の協力も得て3年。町内会の組長を行うことで、法人理念の地域密着型サービスの強化につながると思います。地域の方と共に笑い、第二の我が家となるようスタッフはチームワークを意識しながら、統一性をもって利用者様関わって行く様つとめています。精神面及び身体面での介護を主とする等施設では、会話や日常援助を通してへの出来ることへの喜びや楽しみを見出した生活感あふれる雰囲気作りを目指しています。町内会の協力も得て3年。町内会の組長を行うことで、法人理念の地域密着型サービスの強化につながると思います。地域の方と共に笑い、第二の我が家となるようスタッフはチームワークを意識しながら、統一性をもって利用者様関わって行く様つとめています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型サービスの意義をふまえたホームの理念「地域との関わりを大切に、ここが住み慣れた場所となり、今までと変わらない心・安らぎ・心む暮らしを続ける」を掲げている。その実現に向け町内会の組長を務め、積極的に地域との関わりを行い浸透を図っている。地域に根ざした医療・介護サービスを提供する医療法人であるホームは、要介護度の高い入居者が多く、経管栄養・喀痰吸引に関する同意書があり、経管栄養をされている入居者がいる。本人や家族の意向を踏まえ、家族・医師・看護師・職員が連携を図りながら、安心して最期を迎えられるようチームで支援している。家族の協力を得てここが終の棲家として多くの入居者を看取っている。職員には看取りに関する研修を行い、心のケアも行っている。「不安がないとは言えないが、看取りができてよかった」と職員は話している。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関にも掲示しており勉強会や研修、ミーティングを通し職員も理念を吸収し意見交換等行いながら地域との関わりを持ちながら利用者様が変わらぬ生活が送れるようアットホームな雰囲気作りを目指しています。	法人の理念を基に職員でつくりあげた理念があり、会議の時に話し合っている。職員は地域との関わりを大切にしながら、入居者がいかに安らぎ暮らしていけるかを意識し、理念に沿ったケアを実践している。のんびりと時間に追われないケアを心がけ、家庭的な雰囲気を大切に支援している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本年度は町内会の組長もさせて頂き、町内会の協力にて回覧板を通し地域の情報収集と施設の情報提供を行い、利用者様と地域活動への参加、散歩を通してのふれあい・つながりを大切にしています。	町内会に加入し、回覧板で行事への参加を呼びかけたり地域の情報を得ている。浴衣を着ての盆踊り大会・秋祭りなど地域の行事に積極的に参加している。近隣の方が散歩の付き添いや話し相手になってくれたりしている。また、畑の作物の差し入れもある。社協の紹介のボランティア(ハーモニカ・オカリナ演奏)や大学の落語研究会などの訪問があり、入居者の楽しみになっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の各行事に利用者様と積極的に参加させて頂き、地域の方々のふれあいの中で理解を求めています。9月には昨年引続き施設での秋祭りに参加頂き、施設を知って頂く機会を設けました。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度もいきいき支援センターの方に参加頂き、2ヶ月に1回施設状況報告をしています。ご家族からの意見等も取り入れ、レクリエーション等に反映させています。	家族・町内会長・いきいき支援センター職員の参加で概ね2カ月に1回開催している。会議では入居者の状況や行事報告・意見交換など行っている。意見や提案は会議で話し合い、速やかに運営に反映し、より質の高いサービス提供に努めている。議事録は家族に郵送している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の改正及び施設体制等について、ご指導頂き、理解とサービス向上に向けて取り組んでいます。	役所には書類の提示や分からない事があると電話で問合せたり、出向いて相談するなど協力関係を築くよう努めている。名古屋市高齢者はつらつ推進事業「なでしこ大学」に入居者が参加し、地域の高齢者と交流を深めている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会開催。その都度指導を行い、理解に努めています。必要に応じご家族へ説明、ご理解に努めています。外部からの侵入防止のため施錠対応していますが、必要に応じ施錠解除を行っています。	転倒の危険がある入居者には家族に説明し、同意書を交わしベッド柵を使用している。家族には毎月経過を報告し、3カ月ごとに同意書を改めている。身体拘束に関する勉強会を行い、職員の共通認識を図っている。現在、離設する入居者はいないが、外部からの侵入防止のため玄関は施錠している。	安全確保のため開錠することは厳しい面もあると考えられるが、今後も安全で自由な暮らしを支援するという意識を継続して持ち続けることを期待したい。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と共に勉強会を開き、随時職員との話し合いを持つようにしています。職員間で行動の確認等を行い、言葉遣い等の注意しあうようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本年より1名の利用者様が成年後見人制度を利用されております。管理者は学ぶ機会を持つよう心がけています。職員も少しずつ理解に心がけています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談の面談時より説明を行い、疑問に応じ電話対応も行いつつ、入所時には書類を通して十分な説明を行い理解して頂いています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員誰もが意見が言える環境を整え、毎日のミーティングでの意見交換及び毎月のミーティングでの検討会等にて職員間で共有し反映させています。	入居者の要望などは日々の関わりの中で聴いている。交流会として家族参加の行事を運営推進会議の日に合わせ、会議で家族の意見を聴いている。また、面会時にも気軽に何でも言ってもらえるような雰囲気心がけている。出された意見は話し合い対応している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	労働時間等においては、必要実績に応じ時間外業務して給与に反映させています。各担当業務を決め、責任持って業務に当たれるようにしています。賞与については、一昨年より自己評価性としています。	朝礼や月1回の会議で意見や提案を聞き、運営に取り入れている。職員の提案で洗濯物干しの場所をかえた。「悩みは共有しよう」をモットーに、何かあったら溜め込まないですぐ相談するように、施設長は職員に話している。職員同士でも互いに意見を出し合っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間等においては、必要実績に応じ時間外業務して給与に反映させています。各担当業務を決め、責任持って業務に当たれるようにしています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任研修期間を設け、また施設内での勉強会を開き、各職員のケア内容、ケア方法等を確認し合い、正しい介護技術等を身につけ職員のスキルアップに努めています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者及び職員もグループホーム交流会への参加を行い、情報を共有し職員にも情報を提供しています。職員は、外部研修・系列施設との合同勉強会において交流を図り向上に努めています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は情報収集を行った上で、ご家族の来所時に日頃の利用者様の様子をお話しながら要望等を傾聴に心がけ、安心と信頼関係が築けるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員は情報収集を行った上で、ご家族の来所時に日頃の利用者様の様子をお話しながら要望等を傾聴に心がけ、安心と信頼関係が築けるよう努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集を行った上で、カンファレンス等を開き必要なサービスを提供できるよう努めています。他のサービスにおいてもご本人やご家族の要望に応じ必要最小限対応出来るように努めています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の出来る事は見守り、散歩、料理、洗濯等家事動作を一緒に行う事で家庭らしい環境の中でここが第二の家になるよう支援しています。職員が顔なじみとなり統一性を持って安心できる場を提供しています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議・面会時にご家族と情報交換を行い、ご本人や施設の状況を共有し常に理解し合える関係であるよう心がけています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の友人等にも情報を提供し関係が途切れないよう支援しています。また、利用者様の家族や思い出話、好きだった場所などを話題を傾聴する事で関係が維持できるよう心がけています。	知人や友人が訪ねて来た時は居室で楽しく話をしたり、手紙が届けば代筆するなど、今までの付き合いが継続できるように支援している。家族と馴染みの美容院や月命日のお墓参り、法事に出かけるなど、一人ひとりの生活習慣を大切にしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルを囲み団欒な雰囲気の中で他者との交流を見守り、孤立しないよう利用者様同士の関係を理解し、楽しく関わられるようにしています。また、随時配置検討を行いトラブルに対する配慮しています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も施設から年賀状等にて施設の状況等を伝え、関係作りに努めています。時々退所後のご家族様が来所下さいます。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の言葉を傾聴・表情の変化等に注意を払い、ご家族様を含め、職員間で随時検討しあう場を持ち、利用者様の生活維持に努めています。	職員は日常の会話の中で傾聴し、入居者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は表情や前後の状況などから汲み取り、確認するようにしている。入居者によって表現の仕方が違うため、本人本位で支援するよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシート等に目を通し把握に努めています。また、ミーティングやケアカンファレンスの際に意見交換を行い、把握に努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の介護記録や毎日の申し送りを利用して1日の様子や心身の状況変化等の把握を行い、対応できるように努めています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りの時間やケアカンファレンスを利用してご本人やご家族の要望・医療状況を伝え合い、職員間で意見交換を行いサービス計画に反映させています。	入居者の担当職員が介護計画の立案「ケアチェック要約表」を3か月ごとに提出している。それを基にサービス担当者会議を行い、介護計画を作成している。状況に変化があれば見直しを行い、変更した時は会議で伝えている。サービス評価表でサービス内容が実施できたかどうか、毎日評価している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りノートを利用して情報を共有し合い状態の変化に伴い随時サービス計画の見直しも行っていきます。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	すべてにおいての対応は困難な場合もありますが、ご本人やご家族との会話を元に重視するべき点を捉え、取り組めるよう努めています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社協、いきいき支援センターの方、ご家族の協力を得てボランティアの方にも来所頂き、地域の方の協力を得て行事参加させて頂き、楽しみを見つけて頂いています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が週1回往診され、随時電話対応、受診対応して下さい。必要に応じ医療連携病院への受診も可能となっています。歯科は、月1回検診、週1回口腔ケアと随時治療を行って下さいます。	「医療受診に関する同意書」があり、契約時に同意を得て協力医療機関に変更している。協力医の往診は週1回あり、訪問リハビリも受けている。以前からのかかりつけ医を受診する場合は、家族に付き添いをお願いしている。家族からは健康、医療面について安心であると評価を得ている。医療機関とは、入居者の病歴、罹患した病気の情報を共有し、連携を図っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病状については、常に看護師に相談等を行い利用者様一人ひとりの状態に合った対応を24時間通して行っています。介護職員は医療的理解を養い観察できるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携病院での対応を主に、介護サマリーとかがかりつけ医の情報提供書による情報提供を行っています。また、退院に向けて管理者・看護師、ケアマネージャーを通して病院側と連絡相談等を密に行い状態把握を行いながら援助しています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時より、重度化においての説明を行い同意を頂きますが、その状況におかれた時、改めてかかりつけ医と看護師、ケアマネージャー、ご家族と話し合い、当施設できる医療等を説明納得して頂いた上で要望に応じ支援しています。	「重度化した場合における対応にかかる指針の同意書」がある。職員に対して終末医療に関する指導も実施している。入居者や家族から看取りの希望があれば、ホームでできること、できないことの説明をしている。随時、医師と家族、施設長が話し合い方針を確認している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し勉強会を実施。発生時は看護師に相談、その都度指導、実践して身につけています。職員研修では消防署より訓練用AEDや心肺蘇生人形等をお借りし職員に体験学習しています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は東日本大震災や台風による水害もあったため2回防災訓練を実施。ご近所にも意識して頂くためチラシでお知らせしはしています。水・食料等の備蓄も見直し消防計画書の再作成、職員の役割分担により意識付け、消防団への協力体制を呼びかけています。	今年度は台風に伴う川の氾濫の恐れがあるため避難勧告が出され、ホームでは消防署や区役所に連絡を取り、1階の入居者を解除まで2階まで誘導した。避難訓練は、地震や堤防決壊を想定し、外階段の非常口から降りる訓練や、応急手当の訓練も実施している。備蓄品については、外に貯水タンクがあり、3日分の食糧、カセットコンロ、毛布、シート等を常備している。停電の際のトイレ用の水の確保として、風呂の浴槽には常時水を張っている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送りの際は利用者様がわからないよう居室番号にて送っています。他者の前で職員同士が利用者様の失敗等話題をしないよう配慮しています。特に叱咤は厳禁とし、言葉かけにも注意しています。	「個人情報の同意書、写真記載の同意書」がある。職員には研修や会議、申し送りの際に、入居者は人生の先輩であることを常に伝えている。職員は言葉遣いに気をつけて入居者一人ひとりに接している。居室に入る際はノックをして入り、記録などはイニシャルで記入している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なかなか伝えられない方もおられるので、会話を通して、また表情や行動等で判断できるよう努めています。話しやすい場作りにも心がけています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設においての食事 入浴等の基本的な生活時間はありますが、利用者様のペース、体調にあわせ提供しています。外出希望等要望に応じスタッフ間で調整し支援しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回の移動美容室を利用し好きな髪形にして頂いています。可能な限り利用者様が希望する服を着て頂き、選べない方は、こちらが身だしなみに注意を払い選んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>月2回調理の日を設け、食事作りを楽しんでいます。出来る方には食器拭きなどして頂く事が日々の日課になっています。</p>	<p>配食サービスを利用し、ミキサー食や刻み食はホームで調理している。職員は入居者と同じテーブルと一緒に食事をとっている。1名は入居者と同じ食事で、他の職員は持参した弁当等を食べている。入居者の苦手な物があれば代替して対応している。家族からの希望で、食事中はクラシック音楽を流している。月2回お楽しみ食として入居者から希望を募り、入居者が一緒に作っている。</p>	
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食材は業者より配達され、バランスの取れた食事提供に心がけています。1人ひとりに合った量の盛り付けと食べやすい形態に替え、ゆっくり召し上がって頂けるよう支援しています。又本人の嗜好に合った食事摂取を行っています。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>週1回の歯科による口腔衛生と毎食後の歯磨き、うがい、口腔清拭等を行い口腔衛生に心がけています。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>身体機能の衰えによっておむつ使用の方もおられます。トイレ排泄同様、排泄時間を把握した上で交換を行っています。また、トイレ誘導はその方にあった声かけ援助を行い自立に向け支援しています。</p>	<p>リハビリパンツを利用している入居者が多い。排泄チェック表を24時間つけ、パターンを把握しトイレ誘導をしている。居室にポータブルトイレを置いている入居者もいる。また、自立に向け、リハビリパンツから布パンツに成功した方もいる。夜は安心して寝てもらえるようにリハビリパンツにかえている。排便は細かく記録し、便秘対策としてヨーグルト類や水分補給で排便を促している。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>随時乳製品や水分補給に心がけ、利用者様にあわせ摂取できるよう支援しています。散歩や体操、車椅子自操など促し運動に努めています。便秘時にはその都度下剤対応も行い、排便を促しています。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている</p>	<p>基本は1日おきの提供ですが、時間や曜日にとらわれず利用者様にあった時に入浴して頂けるよう配慮しています。利用者様の要望に応じ毎日の入浴提供も行っています。</p>	<p>介護度の高い入居者の方には職員が2名で介助している。入浴拒否の強い方には、家族にも協力してもらっている。気持ちよく入浴してもらえるように、入浴剤も多数用意している。基本は1日おきの入浴だが、好きな方は毎日入浴している。夕食後の入浴にも対応している。体重測定も定期的に行い健康管理に努めている。風邪をひかないよう冬場の衣服の着脱には気を付けている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>利用者様の生活ペースを基本とし、ケア時間や食事時間にとらわれず体調に合わせて自由な休息と安眠を大切にしています。居室で落ち着かない方はソファ・リビングにベッドを設置し休憩を取って頂いております。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>かかりつけ医・調剤薬局・看護師の指示・指導の下、勉強会を開催し理解できるよう努めています。安定剤や降圧剤等、必要最小限の情報収集を行い、服薬介助及び状態観察を行っています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、買い物、喫茶店、外食等の外出機会を設け、週1回のクラブ活動、外部からの訪問レク等への参加を促し楽しみごとを支援しています。冷蔵庫の設置許可にて嗜好品を楽しめるよう配慮しています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	町内行事への参加を促し、近所のボランティアの方の協力を得て散歩に出かけ、年に2回行楽の機会を利用して社協へボランティアへ依頼をかけ可能な限り協力して頂き、ご家族も誘い馴染みの場所に出かけるようにしています。	天気の良い日には、近所を散歩する入居者もいる。地域のグランドゴルフ大会に入居者と職員が一緒に参加したり、盆踊り大会に出場したり、学区の秋祭りに参加している。ホーム独自で秋の行楽としてブルーボネットに花を見に行っている。1泊旅行や琵琶湖めぐりや苺狩りツアーには家族の協力を得て出かけている。外食で回転寿司に行くこともある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本当施設ではお金の所持はお断りしており、利用者様に状況にあわせ可能な限り立替方式で買い物をして頂いています。今年も秋祭りでは、チケット制にして食事・ゲームを楽しんで頂きました。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	状況に応じ、ご家族に納得して頂いた上で、随時電話対応させて頂いています。希望に応じ、はがき等提供し手紙のやり取りをして頂いております。書けない方には、代筆する事もあります。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングと台所は対面式になっており、自然な光が入り暖かい空間の中で安心感とくつろぎの場となっています。玄関にはクラブ活動等での作品を飾り、行事や季節感も考慮しています。清潔感を第一に日頃から清掃に心がけています。	居間は広々とし、日当たりがとても良い。換気は定期的に行い、白内障など光に弱い入居者もいることから、カーテンを閉めるなど対応している。温度、湿度管理はまめに確認し、夏は28、冬は26にしている。入居者は自然にリビングに集い各々過ごしている。玄関には入居者の手作りの切り絵や書初め等が飾ってある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの位置等を配慮して好きな場所の空間作りを提供しています。リビングは常に開放的であり気の合うもの同士で過ごしたり、利用者様一人ひとりのペースで生活をして頂いています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の生活歴やこだわり等を配慮して使い慣れた家具等を利用して頂き、ベット等の配置にもこだわり利用者様の生活に合った空間作りを提供しています。	南側の居室は日当たりが良く、乾燥予防に濡れタオル等かけている。各部屋にはベッド、クローゼット、レースのカーテンが備え付けてある。ベッドではなく床に布団を敷く方もいる。タンスや鏡台、冷蔵庫を持ち込んでいる入居者もいるなど、特に持込を制限していない。それぞれの生活歴を感じる家具等が置かれ、今までの生活に変化の無いように配慮している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所等がわかるように大きく目印をつけています。週単位の行事提供、また出来る方だけではなく家庭的な雰囲気の中で、食事作りや食器拭き、洗濯たたみ等家事動作に参加を促し援助を行っています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371601234		
法人名	医療法人悠山会		
事業所名	グループホーム ファミリア元八事		
所在地	愛知県名古屋市中天白区元八事三丁目292番地		
自己評価作成日	平成23年11月28日	評価結果市町村受付日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

精神面及び身体面での介護を主とする等施設では、会話や日常援助を通してへの出来ることへの喜びや楽しみを見出した生活感あふれる雰囲気作りを目指しています。町内会の協力も得て3年。町内会の組長を行うことで、法人理念の地域密着型サービスの強化につながると思います。地域の方と共に笑い、第二の我が家となるようスタッフはチームワークを意識しながら、統一性をもって利用者様関わって行く様つとめています精神面及び身体面での介護を主とする等施設では、会話や日常援助を通してへの出来ることへの喜びや楽しみを見出した生活感あふれる雰囲気作りを目指しています。町内会の協力も得て3年。町内会の組長を行うことで、法人理念の地域密着型サービスの強化につながると思います。地域の方と共に笑い、第二の我が家となるようスタッフはチームワークを意識しながら、統一性をもって利用者様関わって行く様つとめています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	
---------------------------------	--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関にも掲示しており勉強会や研修、ミーティングを通じ職員も理念を吸収し意見交換等行いながら地域との関わりを持ちながら利用者様が変わらぬ生活が送れるようアットホームな雰囲気作りを目指しています。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本年度は町内会の組長もさせて頂き、町内会の協力にて回覧板を通し地域の情報収集と施設の情報提供を行い、利用者様と地域活動への参加、散歩を通してのふれあい・つながりを大切にしています。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の各行事に利用者様と積極的に参加させて頂き、地域の方々のふれあいの中で理解を求めています。9月には昨年に引続き施設での秋祭りに参加頂き、施設を知って頂く機会を設けました。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度もいきき支援センターの方に参加頂き、2ヶ月に1回施設状況報告をしています。ご家族からの意見等も取り入れ、レクリエーション等に反映させています。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の改正及び施設体制等について、ご指導頂き、理解とサービス向上に向けて取り組んでいます。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会開催。その都度指導を行い、理解に努めています。必要に応じご家族へ説明、ご理解に努めています。外部からの侵入防止のため施錠対応していますが、必要に応じ施錠解除を行っています。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と共に勉強会を開き、随時職員との話し合いを持つようにしています。職員間で行動の確認等を行い、言葉遣い等の注意しあうようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本年より1名の利用者様が成年後見人制度を利用されております。管理者は学ぶ機会を持つよう心がけています。職員も少しずつ理解に心がけています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談の面談時より説明を行い、疑問に応じ電話対応も行いつつ、入所時には書類を通して十分な説明を行い理解して頂いています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様とは会話を多く持ち、ご家族とは面会時に利用者様やご家族様に関する情報交換を行っています。また家族同士の交流の機会を設定し情報交換をして頂き反映させていきます。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員誰もが意見が言える環境を整え、毎日のミーティングでの意見交換及び毎月のミーティングでの検討会等にて職員間で共有し反映させています。合同会議には主任の職員が以上が参加し提案を議題に取り上げようとしている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間等においては、必要実績に応じ時間外業務して給与に反映させています。各担当業務を決め、責任持って業務に当たれるようにしています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任研修期間を設け、また施設内での勉強会を開き、各職員のケア内容、ケア方法等を確認し合い、正しい介護技術等を身につけ職員のスキルアップに努めています。外部スキルアップ研修にも参加しています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者及び職員もグループホーム交流会への参加を行い、情報を共有し職員にも情報を提供しています。職員は、外部研修・系列施設との合同勉強会・合同施設旅行において交流を図り向上に努めています。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様との対話・傾聴を行うことで、信頼関係を築けるように努めています。徘徊や不穏行動においても行動を見守り安心できるように努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員は情報収集を行った上で、本人の話要望の傾聴に心がけ家族とも話し合いながら援助し安心と信頼関係が築けるよう努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集を行った上で、カンファレンス等を開き必要なサービスを提供できるよう努めています。他のサービスにおいてもご本人やご家族の要望に応じ必要最小限対応出来るように努めています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の出来る事は見守り、散歩、料理、洗濯等家事動作を一緒に行う事で家庭らしい環境の中でここが第二の家になるよう支援しています。職員が「顔なじみ」となり統一性を持って安心できる場を提供しています。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議・面会時にご家族と情報交換を行い、ご本人や施設の状況を共有し常に理解し合える関係であるよう心がけています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の友人等にも情報を提供し関係が途切れないよう支援しています。また、利用者様の家族や思い出話、好きだった場所などの話題を傾聴する事で関係が維持できるよう心がけています。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルを囲み団欒な雰囲気の中で他者との交流を見守り、孤立しないよう利用者様同士の関係を理解し、楽しく関わられるようにしています。また、随時配置検討を行いトラブルに対する配慮しています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も施設から年賀状等にて施設の状況等を伝え、関係作りに努めています。時々退所後のご家族様が来所下さいます。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の言葉を傾聴・表情の変化等に注意を払い、ご家族様を含め、職員間で随時検討しあう場を持ち、利用者様の生活維持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシート等に通し把握に努めています。また、ミーティングやケアカンファレンスの際に意見交換を行い、把握に努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の介護記録や毎日の申し送りを利用して1日の様子や心身の状況変化等の把握を行い、対応できるように努めています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りの時間やケアカンファレンスを利用してご本人やご家族の要望・医療状況を伝え合い、職員間で意見交換を行いサービス計画に反映させています。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りノートを利用して情報を共有し合い状態の変化に伴い随時サービス計画の見直しも行っています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	すべてにおいての対応は困難な場合もありますが、ご本人やご家族との会話を元に重視するべき点を捉え、取り組めるよう努めています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社協、いきいき支援センターの方、ご家族の協力を得てボランティアの方にも来所頂き、地域の方の協力を得て行事参加させて頂き、楽しみを見つけて頂いています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が週1回往診され、随時電話対応、受診対応して下さいます。必要に応じ医療連携病院への受診も可能となっています。歯科は、月1回検診、週1回口腔ケアと随時治療を行って下さいます。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病状については、訪問看護が週一回訪問。利用者様の状に応じ対応を24時間通して行っています。介護職員は医療的理解を養い観察できるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携病院での対応を主に、介護サマリーとかかりつけ医の情報提供書による情報提供を行っています。また、退院に向けて看護師、ケアマネージャー、管理者を通して病院側と連絡相談等を密に行い状態把握を行いながら援助しています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時より、重度化においての説明を行い同意を頂きますが、その状況におかれた時、改めてかかりつけ医と看護師、ケアマネージャー、ご家族と話し合い、当施設できる医療等を説明納得して頂いた上で要望に応じ支援しています。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し勉強会を実施。発生時は看護師に相談、その都度指導、実践して身につけています。職員研修では消防署より訓練用AEDや心肺蘇生人形等をお借りし職員に体験学習しています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年は東日本大震災や台風による水害もあったため年2回防災訓練を実施。ご近所にもチラシでお知らせはしています。水・食料等の備蓄も見直し消防計画書の再作成、職員の役割分担により意識付け、消防団への協力体制を呼びかけています。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送りの際は利用者様がわからないよう居室番号にて送っています。他者の前で職員同士が利用者様の失敗等話題をしないよう配慮しています。特に叱咤は厳禁とし、言葉がけにも注意しています。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分の思いを伝えられない方が多くおられるので、会話を通して、また表情や行動等で判断できるよう努めています。また男性の利用者様もおられるので話しやすい場作りにも心がけています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースの押し付けにならないように注意し、利用者様のペース、体調や精神面にあわせ提供しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回の移動美容室を利用し好きな髪形にして頂いています。利用者様がご自分で判断する事が困難になってきてますが、お一人お一人の個性に応じた服装(髪容)ができるように心がけ身だしなみに注意を払い選んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月2回調理の日を設け、食事作りを楽しんでいます。出来る方には食器拭きや下ごしらえを手伝って頂けるよう心がけております。できない利用者様にも目の前で調理することによって雰囲気味わってもらえます。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は業者より配達され、バランスの取れた食事の提供に心がけています。また、1人ひとりに合った量の盛り付けと食べやすいよう形態を替え、ゆっくり召し上がって頂けるよう支援しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回の歯科による口腔衛生と毎食後の歯磨き、うがい、口腔清拭等を行い口腔衛生に心がけています。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録等を参照にし排泄パターンを把握するようにし、声掛け誘導を行っています。また、トイレ誘導はその方にあった声掛け援助を心掛けております。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	随時乳製品や水分補給に心がけ、利用者様にあわせ摂取できるよう支援しています。散歩や体操、車椅子自操など促し運動に努めています。便秘時にはその都度下剤対応も行い、排便を促しています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は1日おきの提供ですが、利用者様にあった時に入浴して頂けるよう配慮しています。特に入浴拒否の強い利用者様もおられるので、ご家族様の協力も得て恐怖心や羞恥心を取り除く支援を模索しております。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活ペースを基本とし、ケア時間や食事時間にとらわれず体調に合わせて自由な休息と安眠を大切にしています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医・調剤薬局・看護師の指示・指導の下、勉強会を開催し理解できるよう努めています。安定剤や降圧剤等、必要最小限の情報収集を行い、服薬介助及び状態観察を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、買い物、喫茶店、外食等の外出機会を設け、週1回のクラブ活動、外部からの訪問レク等への参加を促し楽しみごとを支援しています。冷蔵庫の設置許可にて嗜好品を楽しめるよう配慮しています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	町内行事への参加を促し、近所のボランティアの方の協力を得て散歩に出かけ、年に2回行楽の機会を利用して社協へボランティアへ依頼をかけ可能な限り協力して頂き、ご家族も誘い馴染みの場所に出かけるようにしています。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本当施設ではお金の所持はお断りしており、利用者様に状況にあわせ可能な限り立替方式で買い物をして頂いています。今年も秋祭りでは、チケット制にして食事・ゲームを楽しんで頂きました。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	状況に応じ、ご家族に納得して頂いた上で、随時電話対応させて頂いています。希望に応じ、はがき等提供し手紙のやり取りをして頂いております。書けない方には、代筆する事もあります。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングと台所は対面式になっており、自然な光が入り暖かい空間の中で安心感とくつろぎの場となっています。玄関にはクラブ活動等での作品を飾り、行事や季節感も考慮しています。清潔感を第一に日頃から清掃に心がけています。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの位置等を配慮して好きな場所の空間作りを提供しています。リビングは常に開放的であり気の合うもの同士で過ごしたり、利用者様一人ひとりのペースで生活をして頂いています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の生活歴やこだわり等を配慮して使い慣れた家具等を利用して頂き、ベット等の配置にもこだわり利用者様の生活に合った空間作りを提供しています。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所等がわかるように大きく目印をつけています。週単位の行事提供、また出来る方だけではなく家庭的な雰囲気の中で、食事作りや食器拭き、洗濯たたみ等家事動作に参加を促し援助を行っています。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホームファミリア元八事

作成日: 平成 24 年 1 月 15 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	昨年の災害を機に避難訓練を強化し、地域・自治体・消防団の協力要請を必要としている。地域には実施前チラシや回覧板にて呼びかけを継続中。	スタッフ間での共有と理解を深め避難訓練を強化する。地域住民及び消防団との連携を図れるよう働きかける。	自治体や消防団との交流を図り、協力が得られるよう働きかけ、協力体制を整える。避難訓練の際は、地域への情報提供及び呼びかけを続ける。	12ヶ月
2	5	運営推進会議において、いきいき支援センター、区役所、家族会での苦情に耳を傾け解決できるように維持していきたい。	行政と、ともに相談・援助が図れるように、三位一体での連携に努める。	運営推進会議の場だけでなく日々傾聴に心掛け、苦情・要望において施設として出来る事をアピールし、苦情・要望にこたえていけるように努める。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月
6					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。